

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立雄峰高等学校・教諭・松井 一樹
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)～令和6年7月26日(金) 2日間
- 3 調査研究課題 教育現場におけるAIの利活用の情報交換
- 4 研修機関等 株式会社インテック大山研修センター
- 5 研修の概要

1. はじめに

この研修の目的は、富山経済同友会が主催する「教師と企業人との交流」に参加し、教育現場におけるAI技術を用いた、「生きる力」を育むための知見の習得や教育現場への導入である。1日目は、3つのテーマの講演会の聴講とディスカッションを行い、異校種の教員や企業人との意見交流を行った。2日目は、グループ活動の中で思考力を育成するアクティビティを行った。集団行動における課題解決の過程を振り返り、「人が育まれるために必要なこと」をテーマにディスカッションを行った。

2. 講演・ディスカッション

① 講演・ディスカッション「人間力について考えよう！」

株式会社MGG 代表取締役社長 牧田 和樹 氏

講演では、人間力の構成要素として、人間性、知性、意欲が挙げられた。特に、動的情報や静的情報と経験が相互作用することで知性を高め、人間力を形成していくという点に焦点を当てて説明があった。講演の中でPDCAサイクルが特に印象に残った。企業におけるリーダーは計画を立てることに意識が向きがちである。企業理念や経営理念の達成を実行することが大事であり、自分が動き、人を動かすことが「人間力」であるということが挙げられた。

ディスカッションでは、「人を褒める」ことに焦点が当てられ、生徒の「人間力」を育むための効果的な声掛けについて議論した。その場で生徒に声を掛けるかどうか、生徒の表情や声をよく観察する必要があることや、褒めることと認めてあげることの違いなどを話し合った。

従来の教育では、教員が一方的に知識を伝えるというスタイルが一般的だったが、生徒自身が納得し、自ら考え、行動に移すことができるようにすることが重要だと改めて認識した。グループワークやディスカッションなど、生徒同士が意見交換し、共に学ぶ機会を積極的に設けたり、問題解決型の学習を取り入れ、生徒が自ら課題を見つけ、解決策に向けて実行する力を育成するような授業展開を行ったりしたい。

② 講演・ディスカッション「自分らしく働く」

YKK株式会社 副社長 黒部事業部所長 小林 聖子 氏

講演では、現代社会における「働き方」をテーマに、自身のキャリアを振り返りながら、様々な視点から話があった。特に印象に残ったこととして、人生の多くが「偶然の出来事」によって形作られるという点と、「善の循環」の重要性に関する点である。海外赴任を目標にキャリアを築いてきたものの、性別による壁や、予想外の出来事によって、必ずしも計画通りに進まなかった。しかし、その経験を通して、自分にとって大切なものを見つけることができ、偶然が重なったことで今の自分が形成されている。「善の循環」という言葉は秘書として仕事していたときに印象に残った言葉だという。自分だけではなく、周囲の人々にも良い影響を与えるような行動を心がけることで、最終的には自分自身にも良い結果が返ってくるという精神を大切にしていきたいとのことだった。

生徒ひとりひとりが持つ個性や価値観を尊重することが大切であり、生徒の進路指導において多様な選択肢の提示や主体的に将来を考えることができる支援が必要だと感じた。そのためには、教員同士が互いに協力し合い生徒の学習をサポートしたり、地域の様々な人々と交流することで、生徒の視野を広げ、社会とのつながりを深める活動を行ったりす

ることが大切だと感じた。

③ 講演・ディスカッション「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏

バンラデシュのインターン経験を通じて、栄養失調に苦しむ子どもたちを目の当たりにした出雲氏は、栄養価の高いミドリムシに着目し、その大量培養と販売を目指した。しかし、その道のりは決して平坦ではなく、500回の失敗を経験しながらも、諦めることなく研究開発を続け、最終的に成功を収めた。出雲氏は、企業の成長には「外部の声を聴く」ことが重要であると強調し、「Talk a lot」「Talk equally」「Talk outside」という言葉を大切にして事業を進めてきたと述べた。

出雲氏の経験から、社会課題に対して強い問題意識を持ち、それを解決するために自ら行動することの大切さを学ぶことができた。生徒たちにも、社会で起きている問題に関心を持ち、解決策を考え、行動に移すことの重要性を伝えるべきだと感じた。特に、社会貢献に関する教育の充実に課題を感じた。地域の課題や国際的課題について学び、それらを解決するための活動を行う機会を生徒に提供したい。ボランティア活動や地域貢献活動への参加を促し、社会の一員としての自覚を育むよう言葉がけを行いたい。

3. 情報交換会

教員が課題に感じていることを中心に異校種の教員同士や企業人と情報交換を行い、その解決の糸口を話し合った。私は「教育現場におけるAIの利活用」というテーマで意見を求め、他校での様子や、企業での人材育成プロセスを知ることができた。

ある学校では、生成AIに頼りすぎることで、生徒の自ら考える力が衰えてしまうというデメリットを把握しつつ、AIとの対話を通して思考力や問題解決能力を育成することができるような授業展開を心掛けていた。1人1台タブレットが普及している中学校では、生徒の学習進度や理解度に合わせて、最適な教材や問題を表示するように設定を試みていた。企業では、プライバシー保護や情報の正確性の確保、AIの使用に向けた研修の複雑さなどから未だ導入に至っていないケースが見られた。

生成AIに関して明確なルールや共通理解など模索していることもあり、十分な利活用まではできていないものの、教育と人材育成の分野において、大きな変革をもたらす可能性があるという点では同意があった。メリットを最大限に引き出すためにも、慎重な導入と適切な活用が求められると感じた。

4. アクティビティ研修

① グランドルールの設定

アクティビティ研修では、グループ内でそれぞれの目標を共有し合い、それを達成するための「ランドルール」を設けた。ランドルールを決めるにあたって、グループ全員の目標が達成されるものか、グループ全員が納得しているか、どういうときにランドルールが適用されているかをしっかり確認した。このルールにより、お互いを尊重し、より深く理解し合うことができ、活発な議論が生まれた。結果として、研修目標の達成に大きく貢献できたと考えている。

② ヘリウムリング

フラフープを指に乗せ、協力して地面につけるというアクティビティでは、チームワークの重要性が改めて浮き彫りになった。私たちのチームは、最短時間で課題をクリアするという目標に向かって、様々な試行錯誤を繰り返した。作戦立案に時間を費やした結果、試行回数は少なかったものの、全員で協力し、互いの意見を尊重しながら、課題解決に向けて一致団結できたことは大きな収穫だった。

③ TPシャッフル

丸太の上で、与えられたお題に従って並び順を替えるというアクティビティは、チーム

ワークと時間管理の重要性を痛感させられた。私たちのチームは、それぞれの課題に集中しすぎて、残りの時間を確認することを怠ってしまい、惜しくも制限時間をオーバーしてしまった。このアクティビティを通して、いかに効率的に課題に取り組み、時間内に目標を達成するかが、業務においても非常に重要であることを学んだ。

④ ブラインドテント

このアクティビティは、目隠しをした状態でテントを建てるという、一見不可能に思える課題だった。しかし、各グループが単独で取り組むのではなく、互いに協力し合うことで初めてクリアできるという点が、このアクティビティの最大の特徴である。私たちのチームは、早い段階でこの点に気づき、他のチームと連携しながら、効率的にテントを建てる方法を模索した。このアクティビティを通じて、共同作業の重要性と、チームワークの力を改めて実感した。

⑤ 研修のまとめ・発表

グループで「人が育まれるために必要なこと」について深く議論した。このテーマは、研修を受ける前にも考える機会があったが、この2日間で得た学びや気づきによって、以前とは全く異なる視点から捉えることができるようになった。私たちのグループでは、「他者との関わり」「感動体験」「人生のミッション」という3つの要素が、人の成長に不可欠であるという結論に至った。他のグループの発表を聞く中で、人それぞれが異なる価値観や考え方を持っていることを改めて実感し、生徒一人ひとりに合わせた指導の大切さを見直し、実践していきたい。

5. 本研修のまとめ

本研修を通して得た学びを、今後の教育活動に活かしたいと考えている。特に、他校の教員や企業の方々との交流を通じて、様々な教育方法や生徒指導のヒントを得ることができた。「生きる力」とは何かについて、考え方は人それぞれであり、どれも正解のように感じた。大切にしている価値観によって考え方は変わり、経験によっても価値観が変化するという言葉が印象に残り、生徒を思う気持ちこそ、「生きる力」の育成に直結するのではないかという結論に至った。

本研修では、異校種の教員はもちろん、教育現場に携わらない企業の方々を交えて意見交流やアクティビティを行ったことで、社会とのつながりを意識した教育の重要性を改めて認識するきっかけとなった。教育現場における課題解決のヒントを得ることができ、学校に戻って他の教員と共有し、生徒たちの「人間力」の育成に繋げていきたいと考えている。

最後に、今回の研修にあたり派遣研修を許可していただいた富山県教育委員会をはじめ、学びの場を提供して下さった富山経済同友会の方々に、心より感謝を申し上げ研修報告とする。